

Introduction to  
Contemporary  
Animation



スザンヌ・バカン、コ・ホードマン来日!!

# コンテンポラリーアニメーション入門

## ～現代短編アニメーションの見取り図～ 2014

第16回講座 7月11日(金)『クエイ兄弟、失敗の迷宮』 講師:スザンヌ・バカン

第17回講座 7月27日(日)『岡本忠成の仕事』 講師:山村浩二 パネリスト:保坂純子(人形制作)、田村実(撮影)、篠原義浩(制作)

第18回講座 8月8日(金)『技法、子ども、メッセージ』 講師:コ・ホードマン

入場料無料／事前申込不要 会場:東京藝術大学 横浜校地 馬車道校舎

アクセス:みなとみらい線「馬車道駅」7番出口を出てすぐ 主催:東京藝術大学大学院映像研究科 共催:横浜市文化観光局



# 公開講座 馬車道エッジズ「コンテンポラリー・アニメーション入門」～現代短編アニメーションの見取り図～

我々の同時代にどのようなアニメーション作家が、どのような意識で作品を制作しているのでしょうか。短編アニメーションは常にアニメーション映像の可能性の最先端を走っています。しかし、実際に製作者や観客の興味の増幅ほど、短編アニメーションを見て知る機会は増えています。まずその基礎知識を共有して、コンテンポラリー・アニメーションの見取り図を描くことがこの公開講座の目標です。

東京藝術大学大学院映像研究科では、世界的に「いま」を象徴する作家の作品の鑑賞を中心に、講義を公開で行います。

2009年7月に始まった公開講座「コンテンポラリー・アニメーション入門」は、今年、東京藝術大学の招聘で、スザンヌ・バカン氏、コ・ホードマン監督をお招きし、特別講座を開催します。

第16回講座  
7月11日(金)



演題:『クエイ兄弟、失敗の迷宮』 講師:スザンヌ・バカン

開場:午後4時30分～ 講演:1部／午後5時～午後6時30分 2部／午後6時40分～午後8時

上映作品:『ストリート・オブ・クロコダイル』(1986)、『失われた解剖模型のリハーサル』(1988)、『櫛—夢博物館から』(1990)、『イン・アブセンティア』(2000)

全作品  
35ミリフィルム  
上映!

クエイ兄弟の創作は、散文より音楽、文学より詩に近い。この講演では、音楽、演劇、バレエ、オペラのために委託制作された映像とともに、1979年からの40本ほどの映画に共通する主題と詩学の要素を探る。クエイ兄弟が「失敗の迷宮」と呼ぶものにある、独特で複雑な美的内容を明らかにしたいと考えている。最近の映画以外の映像を加味することで、最もよく知られている短編『ストリート・オブ・クロコダイル』の永続的な焦点を超える。

クエイ兄弟(Brothers Quay)Profile 1947年アメリカ・ベンシルベニア州ノリストウン生まれのスティーブン・クエイとティモシー・クエイの一卵性双生児の兄弟。69年から72年にかけてロンドンの王立美術大学に学ぶ。80年にプロデューサーのキース・グリフィスとともにアトリエを設立。ポーランドのポスター・アートや東欧の文化に影響を受け、オブジェクト・アニメーションの分野で、独特で完成度の高い映像作品を生みだし、カルト的な人気と影響力をを持つ。1995年初の長編実写作品『ベンヤメンタ学院』、2006年にはテリー・ギリアムがプロデュースした長編実写作品『ピアノ・チューナー・オブ・アースケイク』を制作。またその存在がピーター・グリーナウェイの『ZOO』へのインスピレーションやデヴィッド・クローネンバーグの『戦慄の絆』に影響を与えた。

講師紹介 スザンヌ・バカン(Suzanne Buchan)

現在イギリスの、ミドルセックス大学美術学部アニメーション美学教授。その前にはUCA芸術大学アニメーション・リサーチ・センターのディレクターで、アニメーション美学教授、チャーリッピ芸術大学でも教えていた。「アニメーションジャーナル」の設立編集者、Peer Reviewカレッジ:芸術人文化学カウンシルの会員で、国際映画祭や美術館、放送等のキュレーター、コンサルタントとしても活動している。

第17回講座  
7月27日(日)



「注文の多い料理店」©1991 桜映画社、株式会社エコー

演題:『岡本忠成の仕事』 講師:山村浩二

パネリスト:保坂純子(人形制作)、田村実(撮影)、篠原義浩(制作)

開場:午後3時30分～ 講演:1部／午後4時～午後5時30分 2部／午後5時40分～午後7時

上映作品:『南無一病息災』(1973)、『虹に向って』(1977)、『おこんじょうるり』(1982)、『注文の多い料理店』(1991)

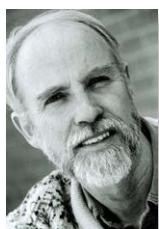
全作品  
35ミリフィルム  
上映!

岡本忠成が1964年に設立したエコーは、今年50年を迎える。岡本忠成は残念ながら1990年2月に他界し、1991年に川本喜八郎によって完成された『注文の多い料理店』を最後に作品は無いが、25年の間にアニメーションの可能性を広げる様々な傑作を生み出してきた。主要な短編作品の上映と、当時の制作スタッフを招いて、岡本忠成の仕事を俯瞰する。

岡本忠成(Tadanari Okamoto) Profile 1932年1月11日、大阪・豊中生まれ。大学卒業後、2年間の会社勤務を経て、日大芸術学部映画学科へ入学。卒業後は持永只仁が立ち上げたMOMプロダクションに入社、アニメーターとして活躍する。1964年に独立し、株式会社エコーを設立、デビュー作となった「ふしぎなくすり」以降、独自の作風を發揮しながら数々の短編アニメーションを製作する。代表作には「ようこそ宇宙人」や「花ともぐら」などの星新一の作品を原作としたシリーズ、その他の有名な民話をもとにした「おこんじょうるり」「さるかに」「モチモチの木」、また唄とのコラボレーションでは合唱曲「チコタン」や、NHKみんなのうたのシリーズなどがあり、特に「メトロポリタンミュージアム」は広く人に親しまれている。毎日映画コンクール大藤賞、芸術祭大賞、キネマ旬報ベストテン1位(文化映画部門)やヴェネチア国際児童映画祭銀賞など、国内外で受賞多数。1990年2月16日、死去。遺作は、岡本の死後パペットアニメショウと共に作品を発表してきた盟友、川本喜八郎の監修による「注文の多い料理店」。



第18回講座  
8月8日(金)



演題:『技法、子ども、メッセージ』 講師:コ・ホードマン

開場:午後4時30分～ 講演:1部／午後5時～午後6時30分 2部／午後6時40分～午後8時

上映作品:『シュッシュッ』(1972)、『砂の城』(1977)、『チャールズとフランソワ』(1988)、『悲しみの白クマ』(1992)、『エコの庭』(1997)、

『ティベアのルドヴィック:雪の贈り物』(1998)、『55足の靴下』(2011)、『青いビー玉』(2014)

講師紹介 コ・ホードマン(Co Hoedeman)

1942年生まれ、オランダで写真の勉強をした後、NFBに就職、1968年から、現在まで45年間、立体アニメーションを中心に実験的なアニメーションや子ども向けの良質な作品を多数生み出している。砂を使った立体アニメーション「砂の城」でNFB初のオスカー受賞。積木のアニメーション「シュッシュッ」、切り紙を立てて置き換えるドローイングと立体アニメーションを組み合わせた「チャールズとフランソワ」、紙書きを習い、紙の質から自ら作った「悲しみの白クマ」など様々な技法と内容をもつた作品を生み出している。正統派の人形アニメーション「ティベアのルドヴィック」シリーズが人気。



「55 socks」©2001 MusiVision/National Film Board of Canada

企画／進行:山村浩二 Koji Yamamura  
東京藝術大学大学院映像研究科 教授

1964年名古屋市生まれ。「頸山」がアヌシー、ザグレブ、広島をはじめ6つのグランプリを受賞、アカデミー賞にノミネートされる。また「カフカ田舎医者」がオタワなど7つのグランプリを受賞。2011年には日本人初のNFBとのアニメーション共同制作『マイブリッジの糸』を完成。国際アニメーションフィルム協会理事、日本アニメーション協会副会長。



会 場: 東京藝術大学 横浜校地 馬車道校舎

アクセス: みなとみらい線「馬車道駅」7番出口を出てすぐ

入場無料／事前申込不要(先着順90名)

\*満席の場合には立ち見のスペースが無いため、会場の中に入れない場合がありますのでご留意下さい。なお、1階ロビーにて講座の映像中継を用意する予定です。

お問い合わせ: ca\_info@animation.geidai.ac.jp

主催:東京藝術大学大学院映像研究科 共催:横浜市文化観光局 協力:ミドルセックス大学、スティーブン・クエイ、ティモシー・クエイ、英國映画協会、株式会社エコー、東京国立近代美術館-フィルムセンター、MJSTP Films、カナダ国立映画制作室

注)予告なく演題、上映作品、講師を変更する場合がございます。ご了承ください。 詳細はホームページをご覧ください。 <http://animation.geidai.ac.jp/ca/>

